

仮名

秋萩帖 [国宝]

伝小野道風 平安時代

教科書 46ページ 東京国立博物館蔵

読み

あきはぎのしたばいろ
安幾破起乃之多者以□
づくいまよりぞひ
都久 以末餘理處 悲
とりあるひとの
東理安留悲東乃
いねがてにする
以祢可轉仁数流

歌の意味

あきはぎ
秋萩の下の方の葉が色づき始めている今か
ら、（秋が深まって寂しくなるので）一人で
過ごす人は眠れないことが多くなるよ。

